

未来を先取りし、 マーケット開拓を

住友生命保険相互会社 代表取締役会長

横山進一さん

Shinichi Yokoyama



経歴

静岡市葵区生まれ。一橋大学経済学部卒。1966年、住友生命保険相互会社入社、鳥取支社長、松山支社長、取締役財務企画部長兼運用開発委員会委員長、常務取締役金融関連事業部長、専務取締役、取締役副社長を経て、2001年、取締役社長に就任。07年から代表取締役会長、現在に至る。70歳。
日本経団連常任幹事、日本ギリシャ協会会長などを兼ねる。

危機から会社を救う

部下や周囲の信頼がとにかく厚い。飾り気のない人柄、若いころからのフットワークの良さは有名だ。総務課長として赴任した北九州支社では、給付金の不正請求問題の処理、本社金融関連事業部長の時には、バブル崩壊後の不良債権の処理を任された。振り返れば、「ややこしい仕事を常に担当してきた」と横山さん。

ただ、社を挙げての不良債権処理の結

静岡市出身で東京を拠点に内外で活躍している皆様に、東京から見た静岡市の良さや可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただけます。

果、社長就任時は「会社の体力が落ち、苦しい時期だった」。このため、関連会社的大幅整理など大胆な経営改革を断行するとともに、「介護と医療のSMISEY」を標榜し、他社に先駆け需要の拡大が見込まれる介護・医療保障に重点を置いた商品戦略を打ち出した。「これによって、会社は体力を取り戻し、立ち直った」。

現在は代表取締役会長として、大所高所から現経営陣のサポートを行っている。大学入学直後から始めた座禅は今も欠か

健康長寿を誇れ

実際、住友生命では前述の通り、少子高齢化社会の到来をにらみ、中高年層を対象に介護・医療保障需要を先取りしたさまざまな商品を投入し、成功を収めたのだ。「ほとんど確定した未来は他にもあるはずだ。それを見つけてマーケットを切り開いていったらどうか」と提案する。

静岡県は健康寿命で女性が全国1位、男性2位の健康長寿県。静岡市も健康寿命1位の維持に取り組んでいる。横山さんは「スポーツが盛んな静岡のイメージと結び付けたいと思う。健康増進イベントのようなものが常に開かれていれば、『だから健康なんだ!』となる。全国に誇れる健康寿命を訴えていくことは静岡のプラスイメージにつながる」と話す。

三保松原が富士山の一部として世界文化遺産に登録された。「素晴らしい。静岡は水もきれいだし、うまい地酒もある。これを機に発信の仕方を工夫し、静岡の魅力を積極的にPRして欲しい」。ストレートな言葉に郷土愛がにじむ。

(文・写真 長田義明)

さず、誠実な人柄が見て取れる。

ビジネスを成功させるポイントを尋ねると、「経営学者の」ドラッカーの「すでに起こった未来に学ぶのも一つの手ではないか。未来は予測できないが、(すでに発生している変化によって)実はほとんど確定しているような未来がある」。